

テキストマイニングによる看護専門領域別実習に関する研究動向の分析

加藤千佳、城丸瑞恵¹⁾、いとうたけひこ²⁾、大高庸平³⁾

昭和大学大学院保健医療学研究科¹⁾

和光大学現代人間学部²⁾

和光大学大学院社会文化総合研究科³⁾

1：序論

- 目的

効果的な看護学実習を構築するための第一歩として看護学実習における研究動向について明らかにした。看護基礎教育は、7専門領域から構成されているため、特に研究数が多い上位3領域に焦点を当ててその領域別特徴について分析を行った。

2：調査対象と方法

- 対象

医中誌のアドバンスド・モードで1980年～2007年まで28年間に発表された論文の「看護」and「実習」＋原著論文、会議録の条件式による書誌データの論文タイトル

- 検索時期2009年8月

医中誌の文献整理の関係上、2007年度の文献がすべて網羅されていない可能性があるが、本研究では検索時期で収集した文献数で分析を実施した。

- **分析方法**

データをテキスト化し、テキストマイニングソフト「Text Mining Studio Ver3.12」を用いた。

テキストマイニングとは、テキストデータを形態素解析し、単語を変数とみなして計量的に分析する方法である。さまざまな変数を手掛かりにして、大量のテキストデータを系統的または多面的に分析することが可能である。

- 単語頻度解析では、文献タイトル中に出現した単語頻度について、注目語分析では注目した単語との繋がりについて分析を行った。
- 看護学と実習に関する研究の中で「専門領域である看護学実習」についてさらに動向を分析するため、単語頻度解析単語フィルタで「看護学を含む」「看護学生含まない・看護学科含まない」単語頻度10回以上として単語頻度解析を行った。

3：結果

- 28年間の総論文数は8,275件であった。
- 経年変化をみると1996年に一旦落ち込んだが、2001年には456件、2002年には706件、2005年には794件と増加傾向にある（図1）。
- 各領域は単語頻度数順に「母性看護学」273件、「基礎看護学」252件、「成人看護学」236件、「小児看護学」222件、「精神看護学」173件、「老人・老年看護学」136件、「地域看護学」63件となっている（図2）。

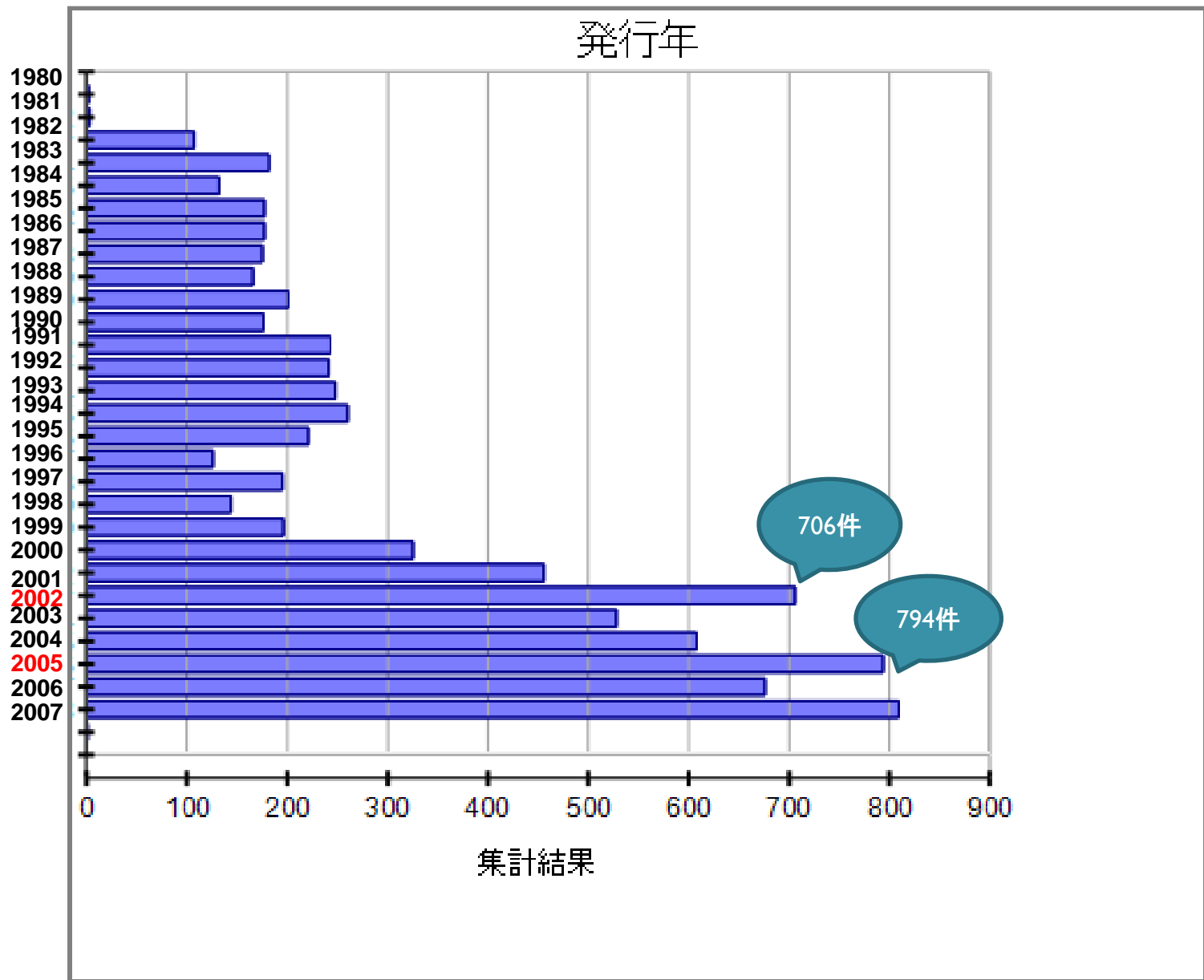


図1 各年毎の論文数

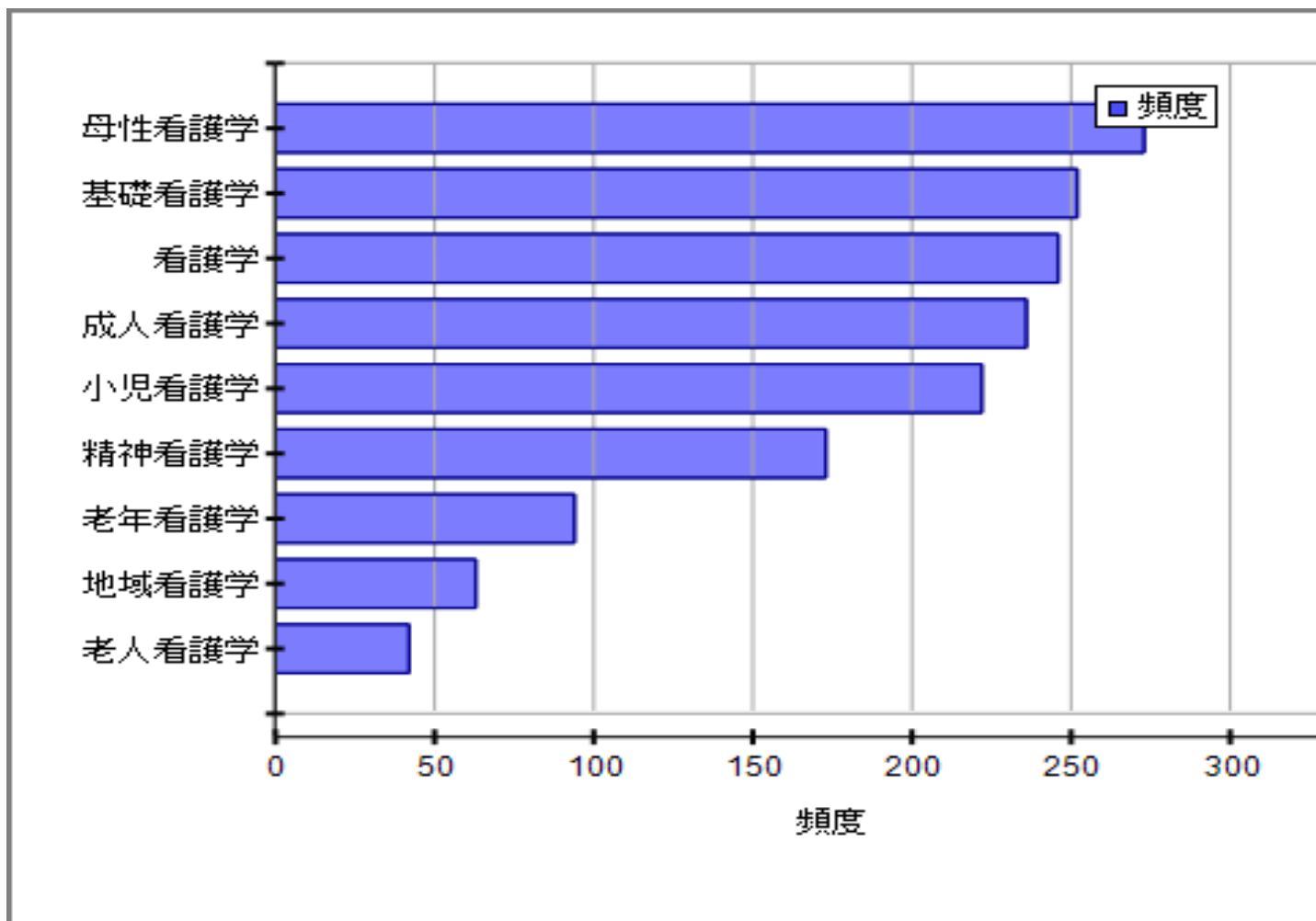


図2:各領域の単語頻度数

4：結果

- 「看護学」という単語が246件出現している。原文参照から「看護学実習の現地看護実践への影響と要因」や「看護学教育における解剖学実習の実際」のように、看護学臨床実習を領域別に分けていない論文や臨地実習というより基礎医学系実習に焦点を当てた研究が行われていた。
- 「看護学」単語頻度解析では、看護学の研究が2002年に「母性看護学」30件「基礎看護学」28件「看護学」25件「成人看護学」27件「小児看護学」25件、「精神看護学」25件「老年・老人看護学」12件「地域看護学」2件であり前年の2001年と比較すると「老年・老人看護学」「地域看護学」以外の5領域で10件以上の論文数増加がわかった(表1)。

単語	1980	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	2000	1	2	3	4	5	6	7
母性看護学	0	0	1	4	7	4	4	12	4	6	6	5	10	2	10	4	3	5	3	6	19	27	30	18	21	20	18	24
基礎看護学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	5	3	1	4	8	9	14	10	28	21	31	46	37	33
看護学	0	0	3	5	3	2	1	2	4	3	2	3	3	2	4	11	7	5	5	8	4	11	25	20	30	24	27	32
成人看護学	0	0	3	3	1	3	5	7	8	7	4	2	6	4	5	3	1	4	1	3	7	9	27	15	19	26	31	32
小児看護学	0	0	1	4	0	4	4	3	4	4	1	4	3	6	5	8	2	4	3	5	17	15	25	15	19	27	21	18
精神看護学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	2	2	0	0	0	4	5	11	13	25	23	18	28	15	23
老年看護学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	5	10	10	13	11	15	11	18
地域看護学	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	0	1	2	0	1	0	1	3	3	2	7	10	4	12	12
老人看護学	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	1	4	7	7	0	1	0	2	1	3	1	2	0	4	1	3	0

表1「看護学」年間単語頻度数

赤文字は最大論文数である

5：結果

- 論文数の多い上位3領域について、単語頻度分析及び注目語分析を行った。
- ①母性看護学では「男子学生」が11件出現し「あり方・試み・新カリキュラム・方向性・改善」と繋がりがあった（図3）。
- ②基礎看護学では「コミュニケーション」が11件出現し、「実習・患者・学生」と繋がみられた。
- ③成人看護学では「看護技術」が7件出現し「実習・看護技術教育・検討」と繋がみられた。

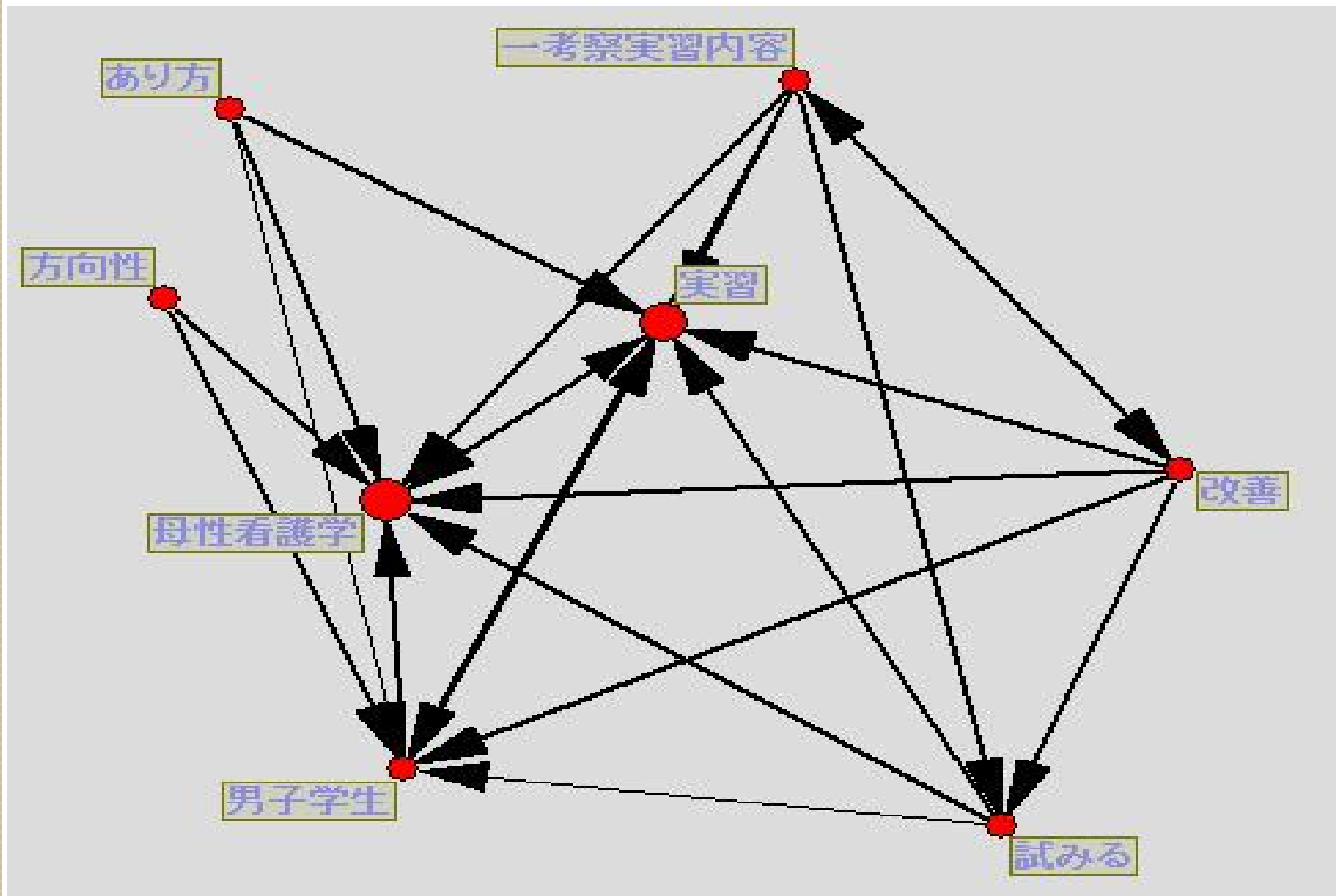


図3:「母性看護学」注目語分析結果

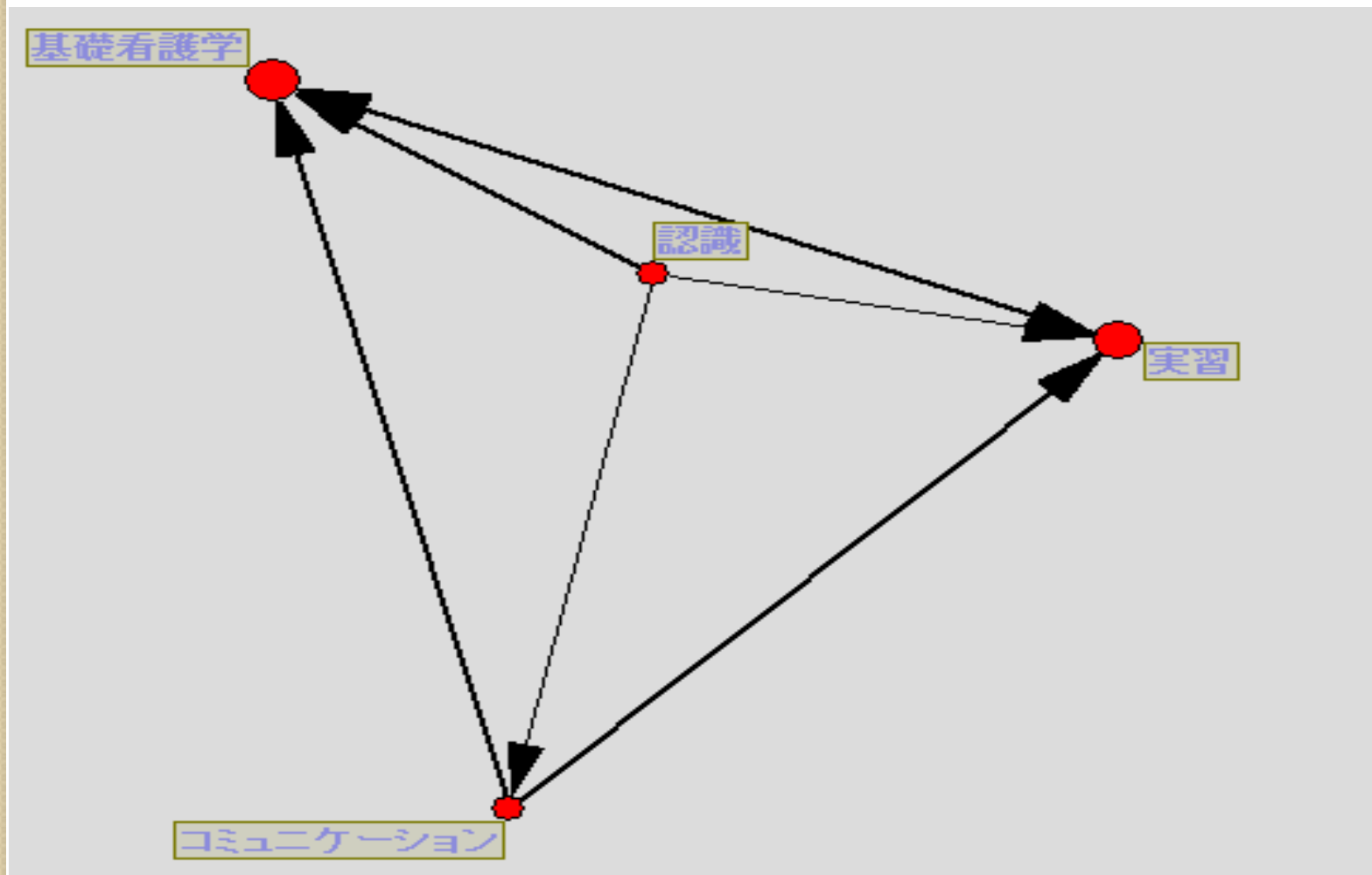


図4「基礎看護学」注目語分析結果

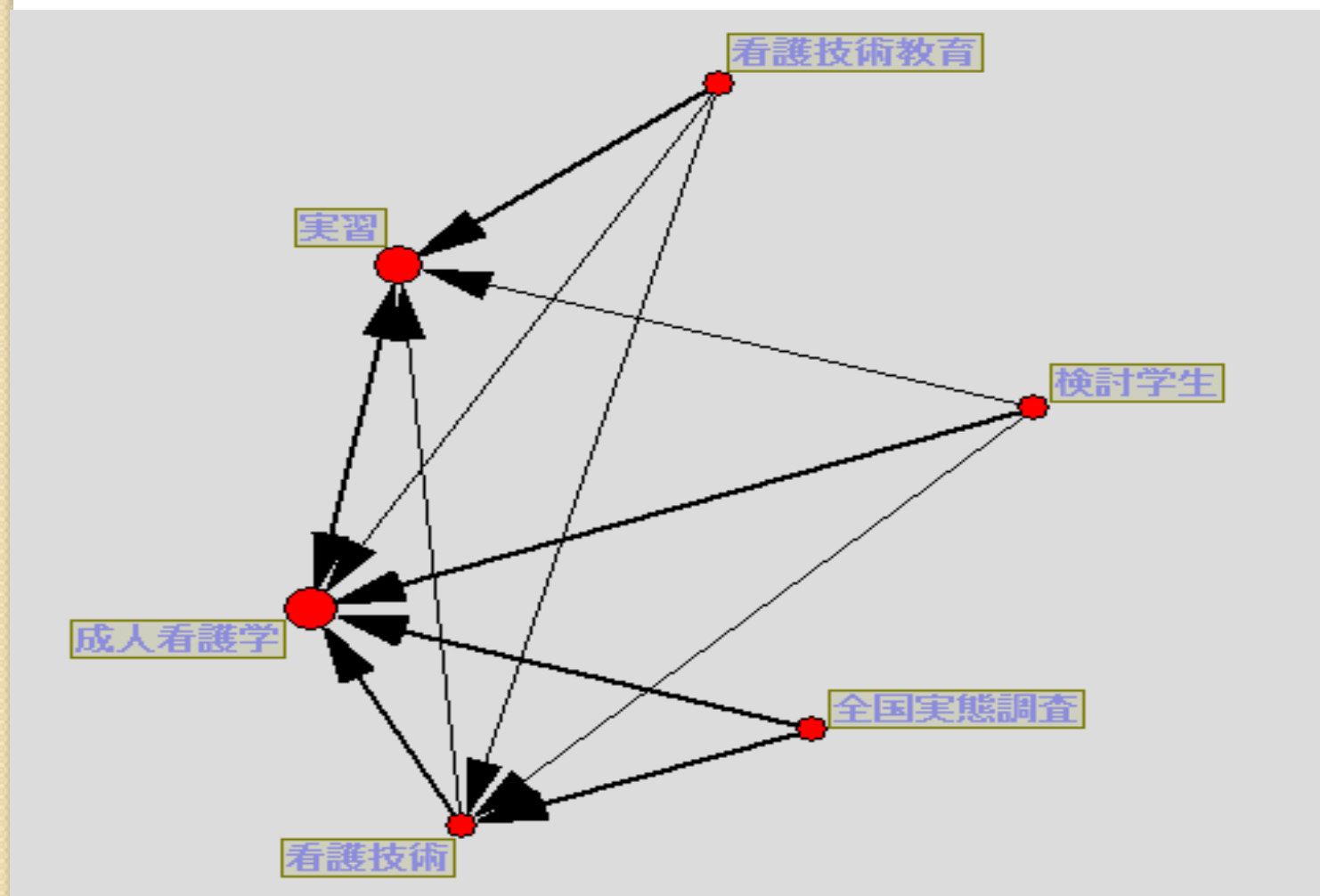


図5:「成人看護学」注目語分析結果

5：考察

- 母性看護学では、男子学生が文献タイトルに出現しており、他領域との違いとして男子学生の実習受け入れの困難さを反映した研究が行われていることが示唆された。
- 基礎看護学では、学生が初めて患者とコミュニケーションを行うことが多いため「コミュニケーション」に着目した研究が多いと考えられる。

6：考察

- 成人看護学は看護師国家試験出題基準の中で、看護技術に関する項目数が多い。そのため特徴的に「看護技術」が注目されていることが伺われる。
- 論文数は順に「母性看護学」「基礎看護学」「成人看護学」と多い。
- 今後、この要因について、社会的背景や看護教育の歴史も踏まえて分析を行いたい。

まとめ

- 1)28年間の総論文数は8,275件であり、1996年に論文数は減少したが2002年以降は増加傾向にある。
- 2)論文数は順に「母性看護学」「基礎看護学」「成人看護学」「小児看護学」「精神看護学」「老人・老年看護学」「地域看護学」であった。
- 3)3領域の論文に多く出現する単語に着目することで、それぞれの研究内容の特徴が示された。